

# 日本の産業革命

貨幣価値の安定を前提として、1886年頃から鉄道・紡績を中心に会社設立ブームが起こり、1890年の恐慌で中断されたが、日清戦争後には再びブームを迎えた。工場生産が目覚ましく発展し、日本の産業革命が本格的に始まった。それは、工場をもつ資本家が労働者を雇い、富を形成する資本主義の本格的確立も意味した。

## ○産業革命

### ●最初の企業勃興

1880年代の<sup>(1)</sup> \_\_\_\_\_ 財政は、紙幣価値を下落させる大量の不換紙幣を処分し、紙幣価値の上昇、つまり物価を下落させるデフレ政策をとった。

⇒米・生糸・<sup>まゆ</sup>繭などの価格が暴落し、行き過ぎたデフレは問題となった。



<sup>(2)</sup> \_\_\_\_\_ 本位と、それに基づく<sup>だかん</sup>兌換制度の(2)本位制が確立されると、物価は安定し、資金貸借料(金利)が低下した。

⇒企業が資金を借りやすくなり、産業界は活気づいた。



1886~89年、鉄道や<sup>ぼうせき</sup>紡績を中心に会社設立ブーム<sup>(3)</sup> \_\_\_\_\_ が起こり、機械技術を本格的に用いる産業革命が日本でも始まった。

⇒しかし、(3)は金融機関の資金不足による「1890年の恐慌」で挫折した。

◇紡績…綿花から綿糸をつくること／製糸…繭から生糸をつくること

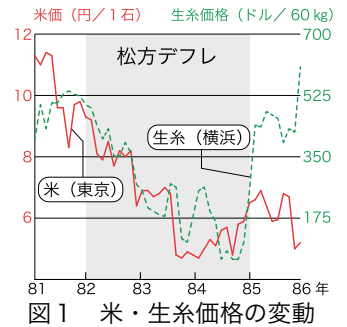


図1 米・生糸価格の変動

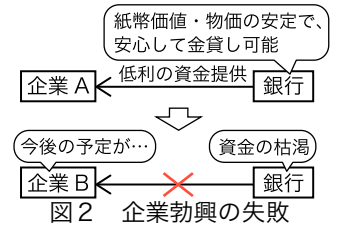


図2 企業勃興の失敗

### ●賠償金遣いと金本位制

1894~95年の日清戦争で、日本は3億6450万円に上る賠償金を得た。

⇒日清戦争の賠償金をもとに、日本政府は次のことに取り組んだ。

①軍備拡張の推進

②1897年、貨幣法制定

…<sup>(4)</sup> \_\_\_\_\_ 本位と、それに基づく<sup>だかん</sup>兌換制度の(4)本位制を確立させた法令

…兌換のために政府が用意すべき純金に、日清戦争の賠償金を充てて実現

③政府監督下で、特定の分野に資金を供給する特殊銀行を設置

…代表的な特殊銀行は、貿易金融を目的とする**横浜正金銀行**、台湾の開発・近代化を目的とする<sup>(5)</sup> \_\_\_\_\_



鉄道や紡績で、企業設立ブーム<sup>(6)</sup> \_\_\_\_\_ が再び起こった。

→繊維産業を中心に、生産手段をもつ資本家が労働者を雇い、商品生産をおこなう経済体制資本主義が本格的に成立した。

⇒しかし、(6)は過剰生産による恐慌で再び挫折した。

### <金本位制にした理由>

当時、金に対する銀の価値が低下し、銀本位制は次の効果をもたらした。

- ①金本位制の国への輸出を増加(=利点)
- ②金本位制の国からの輸入を減少(資本の輸入で不利)
- ③金と銀の相場の変動で貿易が不安定(=不利)

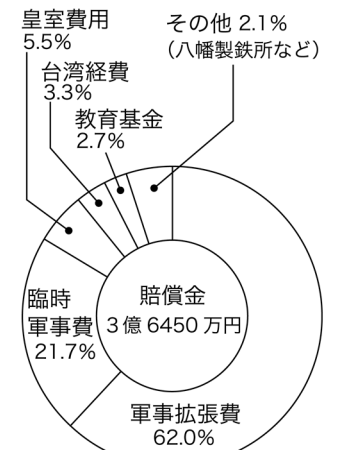


図3 賠償金の使途

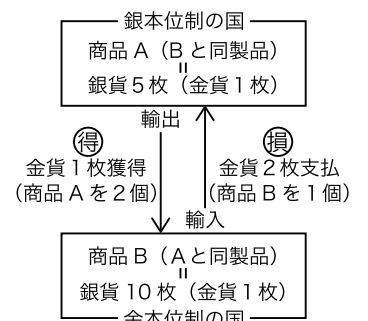


図4 銀の価値低下の場合 (銀本位制の国が日本)